

★大阪アジア映画祭 2011★ ラトビア出身のマリス・マーティンソン監督を 関西日本ラトビア協会の有志で歓迎しました。 2011年3月11日 ABCホール・大阪中之島にて



主演の桃井かおりさんとマーティンソン監督

本年度アカデミー賞外国語映画部門ラトビア代表作品である「香港コンフィデンシャル・雨夜（アマヤ）」の上映が行われ、東郷名誉領事ご夫妻はじめ協会の皆さんも鑑賞されました。

上映後は、マリス・マーティンソン監督、主演でリトアニア出身のアンドリュス・マモントバスさん、桃井かおりさんの3人によるトークセッションが行われ、桃井さんが広東語の台詞を厳しいレッスンで覚えた話や、監督と役者の微妙なコミュニケーションによってお互いがインスパイアされ映画が出来上がっていった様子が語られました。

マーティンソン監督の次回作にも出演することが決まっている桃井さんは、ラトビア・リガのことをよくご存知で、「この映画をきっかけに日本とラトビアとの親善大使になる予定です」と語っておられました。

【大阪アジア映画祭 2011】

会期：3月5日（土）～13日（日）

会場：ABCホール・シネ・ヌーヴォ他

良質なアジア作品を数多く上映する映画祭。今年で6回目を迎え、アジア各国の話題の映画が大阪に集結しました。本年度もアジア映画の評論で知られる暉峻創三氏がプログラミング・ディレクターを務め、特別招待作品11本、すべてが日本初上映となるコンペティション部門10本をはじめ、各種特集上映、ファンと映画人の交流イベントも行われました。映画ファンにはたまらないイベントです。



マーティンソン監督(左から3人目)を囲んで
関西日本ラトビア協会の皆様

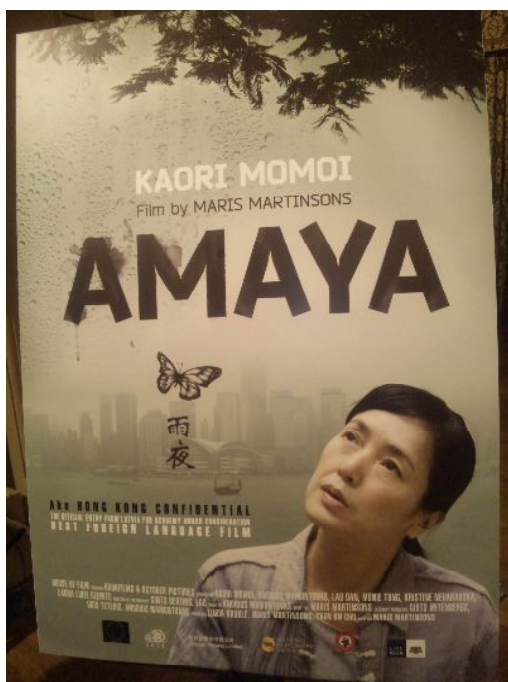
【関西日本ラトビア協会 会報 第5号 掲載内容】

1. 「香港コンフィデンシャル・雨夜（アマヤ）」上映会
2. 【寄稿】ラトビア語を学んで～教室風景～ 寺岡志郎監事
3. 【寄稿】第6回 大使館サロンコンサート” 溝口明子会員
4. 【寄稿】ラトビアの隣国・エストニア滞在記 成瀬康夫会員
5. ラトビア投資開発公社日本代表の交代
6. 【寄稿】関西学院大学学長のラトビア大使館訪問 池田裕子理事
7. 【寄稿】ラトビア植樹祭 上野慶三常任理事
8. カンパルス経済大臣来日、名誉領事館を訪問
9. カンパルス経済大臣を囲む懇親会開催
10. 「リガコレクション」に行ってみました
11. オペラ歌手ノルヴェリスさんがチャリティ公演

★「香港コンフィデンシャル・雨夜（アマヤ）」★ 2010年/ラトビア・香港/92分

監督：マリス・マーティンソン

出演：桃井かおり アンドリュス・マモントバスほか



「香港コンフィデンシャル・雨夜」ポスター

世界で最もエキゾチックで絵になる街・香港。

「香港コンフィデンシャル・雨夜（アマヤ）」は、桃井さん演じるアマヤほか3人の女性が、アンドリュスさん演じる西洋からやってきた男性と出会い、傷ついた心を癒されたり、無くした何かを取り戻したり、という微妙な心理変化を淡々としたタッチで描いており、なんとも言えない不思議な感覚にとらわれる作品でした。

人と人のふれあいに「言葉」はいらない。綺麗な映像に載せて、本来人間がもっている感性の交流には肌の色の違いなどまったく関係無いとばかりに物語が展開され、見る人それぞれが「ストーリー」を想像できる自由な作品でした。

海外初上映が大阪というのも何かのご縁を感じますが、4月に神戸でも上映予定と聞いていましたが、当日発生した東北地方の震災の影響で残念ながら延期になりました。見逃した方は、ぜひ次回の上映の際にご覧いただきたいと思います。



主演のアンドリュス・マモントバスさんと



会場には『世界の中心で、愛をさけぶ』の
行定勲監督の姿も



会場の大阪中央公会堂は内装・外観ともに大阪を代表するレトロな雰囲気の建物です

★ラトビア語を学んで～教室風景～★ 於：在大阪ラトビア共和国名誉領事館

監事 寺岡 志郎 様

大阪にラトビア領事館が開設されたのは2008年5月のことです。その年の9月には関西日本ラトビア協会が設立され、協会のある会合で東郷名誉領事の奥様が提案されたのがきっかけでラトビア語教室がスタート。大阪大学の留学生リンダ・ガルワーネさんに依頼して月2回講義が開かれるようになりました。スタート時の生徒は8人。協会常務理事の上野さんを除き、他の生徒にとってラトビア語はもちろん初めてで、アルファベットの上下にあるいろんな見慣れない記号の発音すらまともに読めない状態でした。



着物姿のリンダ先生



新年第1回目の教室 東郷久野名誉領事夫人からプレゼントされた着物での講義
(後列右から2人目が筆者)

単語も文法もこれまで習った英語とは全く違うと言っていいほどで、特に固有名詞の「格変化」にはなかなか馴染めず、生徒全員頭をかしげることが多々ありました。

先生に「何故固有名詞が変化するか？理解できません！」と言ったところ、先生は即座に「では日本語の格助詞は何であるのですか？」と切り替えられて沈黙したことも。

男性、女性名詞の区分、動詞の多変化など、毎回頭を悩ますことばかりですが、救いはラトビア語の文法がポルトガル語系の文法と似かよっていたこと。ポルトガルに留学した経験のある私にとっては、英語をベースにしている人よりも多少は理解がしやすく、なじみやすい言語だったかもしれません。



当初は私も含めて高齢者の生徒集団でしたので、授業のときには前回のことをほとんど覚えていない状態。それでも美人のリンダ先生の根気強い指導で、皆なんとなく少しずつ理解できるようになってきました。

【次ページへ続く】

京都教育大学の留学生ダナ・アンティボヴァさん（前列左から二人目）もゲストに

祝！ラトビアの石鹸を販売している「ステンダース」が4周年を迎えられました！

この日はオーナー谷本さん（前列左端）と共同経営者のガティス・ガイリティスさん（後列左端）を迎えてネイティブとの会話？を。谷本さんによればガティスさんは無口でシャイな笑顔が少ない軍人さんということでしたが、そのとおりのおだやかな方でした。ステンダースさんにまだ立ち寄りされていない方はぜひ一度訪れてみてください。



ステンダースオーナー谷本さん（前列左端）と
共同経営者のガティス・ガイリティスさん（後列左端）を迎えて



リンダ先生の手造りの料理と誕生ケーキで誕生祝い

この教室での勉強の成果を試す機会が1年後に来ました。ラトビアを訪れることになったのです。最初の1週間はツアーでしたのであまり使う機会がなかったのですが、その後単独行動に移った際、さっそく習ったラトビア語を使おうと挑戦。ところが、むこうの若い人たちは英語教育が進んでいて、東洋人のたどたどしいラトビア語より「英語でどうぞ」とばかり英語で答えるのです。行きつけのレストランでも最初は英語での注文しか通じなかったのですが、こちらから何度も無理矢理ラトビア語で注文すると、ようやくにっこりして私の注文に答えてくれるようになりました。「やっと通じた！」という達成感と同時にラトビアの人たちにも親近感が湧くようになりました。

私は海外旅行が好きでいろんな国によく出かけますが、その国を好きになり、旅行を楽しむには、少しでも現地の人たちとの会話を楽しむことが大切です。それにはほんの一言でいいですから現地語で話しかけること。それだけで相手も親近感を抱いて話しかけてくれることが多いのです。英語が世界共通語であることは間違いありませんが、加えて訪問する国の言葉を少しでも使うことで、より旅行を楽しめると思います。

月2回の教室も最近は若い女性会員の参加で平均年齢も若返り、生徒の数も増えてきました。今年3月には、リンダ先生の手造りの料理と誕生ケーキで先生の誕生祝いをして盛り上がりました。会員の方で海外旅行の好きな方、「中世の面影を残したラトビア」を訪問しようと考えている方は、一度でいいですから事前にこの教室に顔を出していただき、覚えた言葉を現地で使ってみてください。

【寄稿】 “第6回 大使館サロンコンサート”

「がんばれ、日本！ Japan, look for tomorrow!」に参加して

会員 溝口明子 様

2011年5月16日 於：駐日ラトビア共和国大使館

東郷久野名誉領事夫人にお声をかけていただき、5月16日に駐日ラトビア共和国大使館で開催された“第6回 大使館サロンコンサート”へ行ってきました。このコンサートは大使館開設5周年を記念して大使館と日本ラトビア音楽協会の共催で開かれたものです。更に今年はラトビア・日本の国交樹立に関して、ラトビア1度目の独立時より数えて90周年、2度目の独立時から20周年という節目の年でもあります。その為、日本ラトビア議員友好連盟会長の中曽根弘文参議院議員、EU議会ラトビア代表サンドラ・カリニエテ議員等の来賓もお見えになっていました。



EU議会ラトビア代表サンドラ・カリニエテ議員



東郷名誉領事夫人・ヴァイヴァルス大使と（中央が筆者）

コンサートの副題には「がんばれ、日本！ Japan, look for tomorrow!」と掲げられており、会場には先の大震災への募金箱が設置され、コンサート冒頭ではヴァイヴァルス大使の呼びかけで被害に遭われた方々のご冥福をお祈りして全員で黙祷を捧げました。またカリニエテ議員による来賓挨拶では震災と原発の問題に立ち向かう日本人への賞賛の言葉が並び、被災地から遙か遠くに住む私でも日本人として胸が熱くなりました。



コンサート風景

演奏が始まる前に、今回のメインイベントの一つグランドピアノの寄贈式がありました。今回演奏に使用されたグランドピアノは日本ラトビア音楽協会会員である調律師の清水光子さんが大使館に寄贈されたもので、今回のサロンコンサートはこのピアノのお披露目を兼ねた演奏会とのことでした。“歌の民”との交流に相応しい贈り物だと感じました。寄贈されたピアノを用いて奏者の皆さんがそれぞれ思い入れのあるラトビア音楽を熱唱・熱演なさっていました。特にヴァイヴァルス大使やオルロフス次席、カリニエテ議員はここ日本で祖国の音楽を聴けて嬉しそうになっていました。

コンサートの後は立食パーティー形式の懇親会がありました。ヴァイヴァルス大使、オルロフス次席、ラトビア投資開発公社のアシェチュコワさん、そして日本ラトビア音楽協会の皆様とお話する機会を得、アットホームな雰囲気の中とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。また、パーティーで振る舞われたラトビアの黒パン、チーズにバルザムも美味しく頂戴したことも付け加えておきます。最後になりましたがこのような機会を設けてくださった東郷名誉領事ご夫妻にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

コンサートは3部構成で約1時間ありました。出演者と演目は以下の通りです。

1. 風呂本佳苗さん（ピアノ） ヤーゼプス・ヴィートールス：「三つの思い出」 作品 43
ルーツィヤ・ガルータ：昔日 ヤーゼプス・ヴィートールス：「月の光の下で」 作品 41-2 「波の歌」
2. 小玉雅子さん（ピアノ弾き語り／ソプラノ） ヤーゼプス・ヴィートールス：光の城
ヤーニス・ルーセンス：三つの星 ライモンズ・パウルス：わが祖国に 滝廉太郎：荒城の月
山田耕柞：からたちの花
3. 福本信太郎さん（ソプラノサクソフォン） 河西麻希さん（テナーサクソフォン） 稲岡千架さん（ピアノ）
ルーツィヤ・ガルータ：ピアノ三重奏曲より第一楽章



【フェラーリの国】私は昨年、夏場を中心に 81 日間エストニアに滞在し、その間地方都市にも足を運び生活してきました。出発前に行き先を話すのですが、決まって「それどこ？」とほとんどの方に言われました。1 人だけ素晴らしい答えを頂きました。「それってフェラーリって覚えるんですね」と、今度は「それって何ですか？」と私。フィンランド・エストニア・ラトビア・リトアニアの頭文字を取ってフェラーリだと、車関連の方に教えていただきました。

日本国内でエストニアを有名にしてくれたのは、大相撲のバルト関です。彼は首都タリンから東に 100 キロほど行ったラクベレという町の近くの出身です。この町のシンボルとして 小高い山の上に大きな黒い牛が長い角を下から突き上げるようなポーズで立っています。彼のことは国営放送局みたいな ETV で何度か放送されたようでほとんどの人が知っていました。私もスポーツニュースで見たことがあります。



バルト関の故郷ラクベレのシンボル

バルト海はこの国の西側に面しており、南にラトビア その南にリトアニアが面しており、これらの国々はバルト 3 国と呼ばれ、一時期ソ連の体制下に組み込まれていましたが 1991 年再独立を果たした共和国です。その際、人々は 3 国にわたり、手をつなぎ、タリンからリガそしてビルニスへと合計 600 キロにわたる繋がりの中、全員で歌を歌っての独立運動は “人間の鎖” として有名です。このことは、名誉領事館で催された写真展【世界を動かしたバルトの道】で皆さんも目にしたことと思います。この思いは強い愛国心として色々なところで感じる事ができました。いまや日本人には忘れてしまった感情ですネ。

【エストニアの魅力】エストニアの人口は 136 万人で首都タリンには 40~50 万人が住んでいます。国土も日本の九州を一回り大きくした位で、ラトビアと比べると人口も含め、3 分の 2 位の大きさです。ただこの国を訪れる観光客は年々増えており、一説ではこの国の人口をはるかに超える約 500 万人が訪れており、時期はやはり夏の白夜を中心に 5 月から 9 月の 5 ヶ月間に集中しているようです。

なぜ、そしてどんな魅力がここにあるのでしょうか？

第一には、世界遺産にも登録されているオールドタウンだと思います。いくつかの戦火に見舞われながらも ここまできれいに残っているのは他に例を見ないのではないのでしょうか。そしてそれを取り囲むように新しい街と緑が存在し、その共生には日本人の建築家もひと役買っています。

それから私の主観が大分入っているかもしれませんがこの国の女性は世界一きれいだということです。その子たちが笑顔を振りまき たくさんの言語に対応してくれる。ソ連の支配下にあったため我慢強く、その上責任感が強く仕事を楽しみながらすすんでこなしている。

そして他のヨーロッパの国々と同レベルの飲食やサービスがほんとに安く味わえることも大きな魅力です。

【次ページへ続く】



他の都市や 他国への移動もユーロバスが快適に短時間で運んでくれるという位置関係も有利なところだと思います。特にフィンランドへはフェリーで1時間30分程で行ける距離にあり、遠い祖先では同じ民族であるため、言葉も非常に近く、それぞれの言葉で話しても70%は理解できることがお互いの理解力を増しているようです。それゆえ彼らはフィンランドを兄貴分として、たくさんの事を学び取っています。其の1つがノキアから学んだであろうと思うIT技術です。

この国ではどんな田舎の農場でも無線ランが配備されており、パソコンを開けば無料でインターネットにアクセスできるのです。そしてパソコン電話であるスカイプはこの国から生まれ、世界のどこでも、いつでも、ただで話することが出来、今や世界中に広がっているのです。私も滞在中、毎日連絡していたのですが電話代は無料の上、顔を見ながらのTV電話は中々快適なものでした。

【エストニア語】私は滞在中、エストニア語を学んでいたのですが、言葉は日本語で言うローマ字読みですので意外と発音しやすいと思います。でもどのクラスもレッスンは英語で行われるため、私にとっては2つのハードルを越さなければならず、その上この歳での新しい言葉の挑戦はかなり難しいものがありました。

週末には各地方都市を訪れたのですが、それぞれ特徴を持っており、われわれ旅行者でもそれを十分に感じ取ることが出来ました。サマーキャピタルと言われるパルヌは夏になるとたくさんの人がここに押し寄せてバカンスを楽しんでいく。大学の町と言われるタルトは街のシンボルも自由を謳歌する男女をモチーフにし、開放的でこざいかに保たれた町並みは歩いている気持ちのいいものでした。国境の町ナルバは川を挟んで反対側はロシアと言う位置関係からその歴史を感じずにはおれません。サンクトペテルブルグを遠くに見る事のできる砂浜は、北のリヴィエラと言われ、その美しさを持ち合わせていますし、バルト海に浮かぶサーレマ島のクレサーレは特に近年 スパを始め、リゾートアイランドとしての価値を高めています。

そして今年の1月1日から貨幣制度がユーロに変わりバルト3国では最初の導入国となり、1が並ぶこの日からエストニアは新たなスタートを切ることになったのです。

【ラトビア大使館だより】

ラトビア投資開発公社（LICC）の日本代表ドミトリス・ベロウソフスさんが退任され、3月13日から新たにアリナ・アシェチェブコワさんが就任されました。

東京・中目黒のラトビアグッズのセレクトショップ「Riga Collection（リガコレクション）」のオーナー川島容次郎さんの呼びかけで6月14日の夕刻、ラトビア大使館にてお二人の歓送迎会が盛大に開催されました。



退任の挨拶を述べるドミトリスさん



お二人と記念撮影（中央事務局金井・右がアリナさん）

ドミトリスさんは初代日本代表としてラトビアから着任し、日本とラトビアの間で活発な経済活動に尽力されました。

後任のアリナ・アシェチェブコワさんは1984年ラトビア生まれ。ラトビア大学で日本について学ばれた後、早稲田大学に留学経験を持つ才媛で日本語も堪能です。今後日本とラトビアの経済交流に力を発揮されることと思います。ご活躍をお祈りします。

【寄稿】 関西学院大学学長のラトビア大使館訪問

理事 池田裕子 様

関西学院大学学長の井上琢智(たくとし)教授と共に駐日ラトビア共和国大使館を訪問し、ペーテリス・ヴァイヴァルス大使にお会いしました。その時の模様をご紹介します。

訪問の目的は、2008年10月10日に大使が関西学院にお持ちくださったイアン・オゾリン(90年前に関西学院で教鞭をとっていたラトビア人青年)に関するラトビアでの調査結果の翻訳(ラトビア語→日本語)が完成し、『関西学院史紀要』第17号(2011年3月25日発行)に掲載することができた報告と、公表に至るまでのご協力に対する感謝の気持ちをお伝えすることでした。

4月27日午前11時前、渋谷区神山町のラトビア大使館前で経済産業省訪問を終えられた学長と落ち合いました。用意したラトビアンレッド(国旗の色)のポケットチーフを胸に入れていただいてから、大使館の呼び鈴を押しました。

私にとって大使館訪問は5度目ですが、学長は初めてです。玄関に入って部屋に飾られた短歌などの説明をしていると、ヴァイヴァルス大使とオレグス・オルロフス次席が出て来られました。名刺交換の後、英語とラトビア語と日本語を交えた和やかな会話が始まりました(こちらが英語で話すと、大使もオレグスさんも英語で対応され、日本語で話すと、オレグスさんがラトビア語に通訳してくださいました)。

大使へのプレゼントとして、学長は古書店で見つけられた『文学部回顧』(1931年1月1日発行)をお持ちになりました。これは、関西学院におけるオゾリンの活躍を現在に伝える唯一とも言える刊行物です。学院史編纂室からは、論文抜刷と神戸のお菓子を差し上げました。

学長は、日本にとってオゾリンが活躍した大正時代がどのような時代であったか、また、関西学院大学の卒業生(田中研治神戸薬科大学教授)にラトビア語の翻訳をお願いできた幸運を説明されました。

大使は、オゾリンの存在が日本で多くの人に知られるようになったことへの感謝の気持ちを表されました。オゾリンだけでなく、両国交流史上重要なヘルベルトス・ツクルスやハンス・ハンターにまで対象を広げて調査していること、成果を日本語だけでなく、一部は英語でも発表していることに対してもお礼を言われました。ツクルスに関しては、本国でも再評価のための委員会が立ち上がっているそうです。さらに、ラトビア語スピーチコンテストを9月に大使館で開催する予定であることを教えてくださいました。「池田さんは大阪のラトビア語教室で最も優秀な生徒だと聞いています。ぜひ参加してください」と言われ、腰が抜けそうになりました。

嬉しい提案も受けました。前回の講演から間もなく3年になることから、再び関西学院でお話くださるそうです。それに合わせて、ラトビアで5年に1度開催される「歌と踊りの祭典」の写真展を開催できないだろうかと言われました。2008年に行われた「祭典」の写真パネルを大使館はお持ちだそうです。早稲田大学では2009年3月にダウゼ国会議長を迎え、写真展が開催されました。大和ハウス本社でも展示されたことがあるので、ご覧になった方もいらっしゃるでしょう。私は早稲田大学の写真展を見学しましたが、迫力ある美しい写真の数々に目を奪われました。関西学院で開催されれば、大勢の方に関心を持ってもらえることと思います。

訪問を終え、学長と別れてから、中目黒の「リガ・コレクション」に向かいました。そこは大使館で勧められたラトビアのアンテナショップで、まだ見ぬオゾリンの国の黒パンやリネン製品、アロマキャンドル、蜂蜜、オーガニック化粧品等が売られていました。目移りしながらも、上品なりネンのテーブルクロスに目を留めると「それは大使の故郷ルーイエナのもので」と言われました。学長のお供で大使館を訪問した記念に、大使の故郷の品を我が家に連れ帰ることにしました。

★『関西学院史紀要』第17号には、ラトビアに関する次の2論文が掲載されています。「関西学院リポジトリ」(<http://kgur.kwansei.ac.jp/dspace/handle/10236/7138/browse-title>)からお読みいただけますが、印刷物が必要な場合は、関西学院 学院史編纂室池田(0798-54-6022)までご連絡ください。

1. 「ヤーニス・オアゾアリンシュール日本(神戸、1920~21年)でラトヴィアの外交官と領事を務めた人物」
シルヴィヤ・クリジェヴィツァ著(訳・田中研治)
2. 「関西学院のラトヴィア人教師イアン・オゾリンとその教え子―曾根保と由木康」
池田裕子著

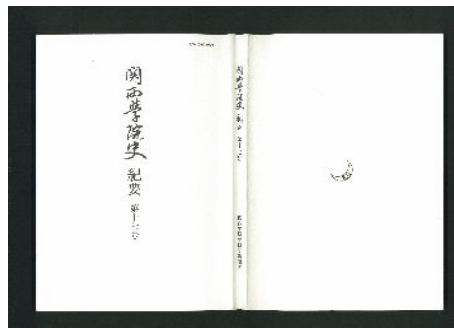
★ヴァイヴァルス大使の講演会は関西学院大学で10月20日(木)21日(金)に開催の予定です。
(一般参加歓迎)



オレグスさん、井上学長、ヴァイヴァルス大使、池田さん

【関西学院のラトビア人教師イアン・オゾリンと池田裕子さん】

3月下旬発行された『関西学院史紀要』に、約2年間にわたって翻訳が進められていたオゾリンに関する調査論文（執筆者ラトビア外務省のシルヴィヤさん）の翻訳と、ヴァイヴァルス大使の目にとまりその論文の翻訳のきっかけとなった池田さんご自身の文章（「関西学院のラトヴィア人教師イアン・オゾリンをめぐって」2007年『学院史編纂室便り』第26号掲載）が同時に掲載されました。『関西学院史紀要』は池田さんから名誉領事館にも寄贈いただきましたので興味のある方はぜひ一度ご覧ください。



『関西学院史紀要』

池田さんとラトビアとの出会いについて、その論文の末尾に池田さんご自身が詳しく記されており興味深く読ませていただきましたのでここに少しご紹介させていただきます。

かつてロシア語を学んでおられた池田さんは、当時ソ連邦に併合されていたラトビア共和国の首都リガの写真やパンフレットを神戸の旧日ソ協会で目にされました。おそらくその美しい異国の風景に魅せられたのではないのでしょうか。その後ラトビアは独立を回復、そして運命のように池田さんはオゾリンという名のラトビア人に出逢います。その人はかつて関西学院で英語を教えていた教師でした。その存在について情報発信をされているうちにヴァイヴァルス大使の目にとまります。それをきっかけに大使は本国の外務省職員にオゾリンについての調査を指示、ラトビア語での論文が完成します。ラトビア語の原文から日本語への翻訳についてはラトビア語の専門家・田中研治氏（神戸薬科大学）とネイティブスピーカーのリンダ・ガルワーネさん（大阪大学大学院）という強力な支援者の協力を得てようやく完成までこぎつけられました。

長い歴史の中に埋もれていた「オゾリン」という存在を学院史上に鮮やかに蘇らせた池田さんの熱い思いに敬服しつつ、その功績に拍手をお送りしたいと思います。
（事務局・金井）

【寄稿】 「ラトビア植樹祭」 常任理事 上野慶三 様

2011 年 4 月 29 日

★ラトビアとリトアニアの農林大臣も出席、14 カ国が参加してにぎやかに開催されました★



資源のないラトビアでは「シラカバはゴールド」と言われています。1606 年から国策で植林が始まり、毎年この時期に植樹祭が行われています。

70 年後に立派に育ったときには、自分たちの祖父母・父母が植えた木を使わせていただくという感謝の気持ちを持って大切に扱われています。70 年後に製品として蘇るという素晴らしいロマンと、貴重な資源の循環が受け継がれる国ラトビア。永続的な森林経営が確立された世界で最も環境意識の優れた国と言われています。

ラトビアの先週は 25℃位で暑かったのに、今週は日中でも 10℃以下で今日は大雪で今は 2 4 時半頃でマイナスです。ラトビアは訪れるたびに違った顔を見せて何度来ても我々を魅了してくれます。4 月 29 日に毎年 LF 社恒例の植樹祭がありました。機会があればぜひ植樹にお越しください。

【上野さんのシラカバジュース】関西日本ラトビア協会の皆さんが昨年 5 月にラトビアを訪問した際に、シラカバジュースを飲んでもらえなかったからということで、上野さんがチーズとお菓子と黒パンと一緒に白樺のジュースを持って帰ってきてくれました。ラトビア語教室の参加者の皆さまに味わっていただきました。



★ラトビアから経済大臣が来日、在大阪名誉領事館を訪問いただきました★

2011年7月14日

ラトビアの経済大臣アルティス・カンパルス氏が日本外務省の招聘で7月10日（日）～17日（日）の日程で訪日、7月14日（木）は大阪にて在阪企業や、経済団体等を訪問され、名誉領事館にも立ち寄っていただきました。観光も所掌しているカンパルス大臣は15日には京都を訪問、16日に東京に戻られました。



在大阪ラトビア共和国名誉領事館（大阪市北区）にてカンパルス大臣一行と東郷名誉領事ご夫妻



東郷名誉領事とカンパルス経済大臣

アルティス・カンパルス 経済大臣

（政党連合「統一」、「新時代」所属）

【生年月日】1967年5月3日（44歳）

【学歴】1985～1992年

リーガ工科大学機械工学部卒

【主な職歴】

1993～2002年	民間企業「ロニス」取締役
2002～2006年	国会議員、「新時代」副党首
2002～2004年	司法委員会委員、 公共費用監査委員会委員
2004～2006年	予算財政（税金）委員会委員 国家安全委員会
2006～2009年	公共管理自治委員会委員 公共費用監査委員会委員
2009年3月	経済大臣
2010年10月	国会選挙で当選
2010年11月	経済大臣（再任）

★アルティス・カンパルス経済大臣を囲んで懇親会を開催しました★

2011年7月14日 大阪マルビル6階にて

カンパルス大臣ほか経済産業省のスタッフの方がた、ラトビア投資開発公社の代表、そしてラトビアの民間企業のトップマネジメントの皆さん総勢12名を大阪にお迎えし、関西日本ラトビア協会主催の歓迎レセプションを開催しました。



【東郷武名誉領事 歓迎の挨拶】

カンパルス大臣はじめラトビアからの訪問団をお迎えし、心から歓迎いたします。また3月に東日本で発生した大震災に際して、ラトビア本国からご支援をいただき心からお礼を申し上げます。

当地大阪では2008年に名誉領事館が開館しました。また本日有志の方々にご参加をいただいておりますが、関西日本ラトビア協会を立ち上げすでに会員は180名余となっており、ラトビアと日本・関西の友好を深める様々なイベントをこれまで数多く開催してまいりました。



東郷武名誉領事

昨年は、ウィーンフィルハーモニーの来日公演指揮者にアンドリス・ネルソンス氏が来日しました。またラトビア交響楽団の公演がありインツ・ダーレディス文化大臣をお迎えしました。そしてバイオリンとピアノのスクリデ姉妹の大阪公演が行われ歓迎のレセプションを開催しました。

今年の3月には大阪アジア映画祭にラトビア人監督マリス・マーティンソン監督が主演女優桃井かおりさんと一緒に来阪されました。

このようにラトビアの方が大阪に来られ、私たち協会の皆さんと親しく交流をすることでラトビアという国がより身近になってまいりました。このたびのカンパルス大臣の訪日が実りある成果をあげられますことをお祈りしてご挨拶とさせていただきます。

★カンパルス経済大臣を囲む懇親会★

【アルティス・カンパルス経済大臣の挨拶】

東郷名誉領事はじめご列席の皆さま、このように温かく歓迎をしていただきありがとうございます。これまででは文化面の交流が多かったと聞きましたが、今回は経済の交流が中心になっています。

また東日本大震災に際してラトビア国民を代表して日本の皆さまに心からのお見舞いを申し上げます。今後もしることがあれば復興に向けてお手伝いをさせていただきたいと思っています。



アルティス・カンパルス大臣

今回の来日は日本政府からのお招きによるものですが、ラトビアの企業とともに来ることができ、新たな交流が生まれることを大変うれしく思います。今年は日本とラトビアの国交回復 20 周年の年であり、日本がラトビアの独立を承認してからすでに 90 年が過ぎています。今回の訪日の目的は経済関係を発展させることですが、今日までに様々な経済交流ができました。ラトビアのお隣の国リトアニアでは原子力発電所の建設が計画されていますが、そこには日本企業の日立や東芝が参入に向けて手をあげています。福島での原発事故にもかかわらずラトビアも日本の技術を大変高く評価しています。

ラトビア国内の経済危機にもかかわらず、ラトビア企業は努力を続けて来ました。特に木材関係は日本への輸出が増えています。今回は三菱自動車の社長と話しましたが、ロシア向けの輸出にラトビアを経由して行うのはどうかという話をいただきました。また今回一緒に来日した企業の中は日本向けに建物を輸出できるので、ぜひ今後も交流を深めていただければと思います。

これからは文化的な面だけでなく経済的な面でも多くの方が来日し日本で認められるようになるのではないかと期待しております。

改めて皆さまがたの温かいおもてなしに感謝申し上げます。また日本とラトビアの文化の違いは様々ありますが、今回の訪問がその違いを乗り越え 2 国間の交流に大きな歩みとなれば幸いです。ありがとうございました。



天江喜七郎会長

【天江会長挨拶と乾杯のご発声】

本日は、カンパルス大臣ご一行を、協会メンバーとともに迎えできて大変うれしく思います。東郷名誉領事が言われたようにこれまでに多くの芸術家たちがこの地を訪れました。今回はラトビア政府の閣僚の中でも影響力のあるカンパルス経済大臣に来阪いただきました。外務省によれば、カンパルス大臣は日本の外務省ならびに経済産業省の副大臣と面談され、日本経団連も訪問されたそうです。いずれも大変な歓迎を受けられ、とてもよい印象を残されたとお聞きしました。

ラトビア経済は 2008 年のリーマンショックで大きなダメージを受け GDP は 40% も落ち込むという大変厳しい状況を経験されました。しかしラトビア政府ならびに国民の皆さんは力を合わせてこの国難を克服し、マイナス成長から水面上に出るところまで経済回復を遂げられました。そして 3 年後の 2014 年にはユーロ圏にも加盟したいと表明されました。

大変大きな夢に向って進んでおられます。私はラトビアの皆さんが、きっとこの目標を達成されるものと確信しております。今回の来日は非常に重要なものになります。なぜなら今は円高が進み、円が大変強くユーロが弱い状況です。ということは日本企業がラトビアに投資するには絶好のチャンスです。カンパルス大臣にはこれから何度も日本に来ていただいて、その度に有力な官僚や企業人たちを連れてきていただきたいと思います。その方々と日本の皆さんが個人的な信頼と絆を深めていくことを祈っております。そして今後も相互に交流をすることでラトビアと日本の関係がますます深まっていくことを大いに期待しております。

★カンパルス経済大臣を囲む懇親会★



右：ラトビア投資開発公社 長塚徹氏



ラトビアの木材関係の企業代表の皆様



上野常務理事はお昼に開催された関西経済連合会のセミナーにも参加



右：ギンタ・オゾラ経済省大臣室長

【正司常任理事中締めのご挨拶】



正司泰一郎常務理事

本日は大変意義深い懇談ができたこと心からお礼申し上げます。カンパルス大臣ご一行は日曜日に来日され、今日まで4日間にわたって目覚ましい成果をあげられたと聞きました。これをきっかけに今後ますます日本とラトビアの経済交流が進んでいけば大変素晴らしいことだと思います。ラトビアはリーマンショックによる経済の落ち込みに見舞われましたが、国民の皆さんのご努力によって非常に短期間で克服されたことはまことに喜ばしいことだと思います。

日本はこの度、未曾有の大災害に見舞われましたが、それに対して温かいご支援をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

関西も16年前に大きな地震による被害を受けましたが、おかげさまで今日では目覚ましい復興を遂げることができました。しかしこの間に我が国は高齢化が進み、人口も減少する時代に入りました。

このような時代背景の中、この度の震災からの復興は、一段と難しい問題も多く、大変な努力が必要だと思います。

また世界的に見ても自然災害が多発する時代に入っていると言われています。どこで大きな災害が起こっても不思議ではありません。われわれ日本の復興が今後の世界のモデルケースとして評価されるように国民が心をひとつにして、復興に向けた努力をしていくことが必要ではないかと思います。またそうできると確信しております。

最後にカンパルス大臣をはじめご一行の皆さんが、この後の日本での滞在でさらに大きな成果をあげられるようにお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

★カンパルス経済大臣を囲む懇親会★



濱田加津子さん 日比富美子さん 東郷久野さん



手作りの和風玩具を記念品としてプレゼント



権藤真禎さん エリーナ・ビービニャ大臣顧問 ダナ・アンティボヴァさん 池田裕子さん アリナ・アシェチェブコワさん



溝口明子さんはご自身のお店「SUBARU」についてもPR



ダナさん



オゾラ経済省大臣室長 佐々木實さん



田中立子さん 溝口さん



アリナさん・上野さん・リンダさん・池田さん



リンダ・ガルワーネさん



天江会長



佐々木さん

正司さん

【噂の「Riga Collection リガコレクション」に行ってきました】



池田裕子さんも大使館に行かれた際に立ち寄られたラトビアグッズのアンテナショップです。私もドミトリスさんとアリナさんの歓送迎会にうかがった日に覗いて見ました。東京・中目黒の駅前の高層マンションの中にひっそりとたたずむように、そこにはラトビアの様々な食品から雑貨・家具・アパレル・ファブリック・サニタリーなどがきれいにディスプレイされていました。私はその中からナチュラル感漂う花びら入りのアロマキャンドルを購入しました。このリガコレクションはオーナーの川島容次郎氏がラトビアとの関わりの中から2010年の7月にオープンされたそうですが、ラトビア投資開発公社のドミトリスさんも大変力を入れておられました。ちなみに神戸で雑貨店「SUBARU」を経営する溝口明子さんも自らラトビアまで商品を仕入れに行かれています。丁度この日大阪・梅田の阪神百貨店に出店しておられ、そこにはリガコレクションの商品もお借りしたと言っておられました。日本でラトビアの雰囲気が存分に味わえる場所です。ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。（事務局金井）

住所：東京都目黒区上目黒1-26-1 中目黒アトラスタワー3F（東急東横線・中目黒駅）

営業時間：11時～19時（月曜日定休日） TEL：03-3712-7071



公演後ノルヴェリスさんを囲んで

堺シティオペラ・チャリティコンサート
オペラ歌手クリスヤニス・ノルヴェリス
さんが来日しました 2011年6月28日

2009年9月にもオペラ公演で来阪し協会主催の歓迎会にもお越しいただいたノルヴェリスさんが、なじみの深い日本が震災から一日も早く復興することを願ってチャリティコンサートに出演するために来日、堺シティオペラのメンバーと共に。その低音の美声で「セビリアの理髪師」「陰口のアリア」などバス独唱を披露しました。公演終了後に東郷名誉領事夫人が協会を代表して歓迎の意を表していただきました。

ノルヴェリスさんは1971年ラトビア生まれ。1998年ラトビア音楽アカデミーを卒業。1998年よりラトビア国立オペラとソリスト契約、ウィーン国立歌劇場とも契約を結ばれ、今や期待のバスとして世界的に活躍するオペラ歌手です

【編集後記】

ちょうどカンパルス経済大臣が来日している頃、北海道の旭川市東川町には姉妹都市ラトビア・ルーイエナ町からグンティス・グアドキンス町長ほか議員、企業経営者、教育関係者総勢14人が訪れていたそうです。3月の震災・原発事故後、急激にインバウンドが減少している中、ラトビアの皆さんの日本に対する思いが感じられるような気がします。

さて本協会の活動も3年目に入っております。会員数も3月末現在180名になり、皆様のご支援に感謝申し上げます。以前会報で会員の皆様のお名前を一覧で記載いたしましたが、その後にご入会いただいた方は以下の3名です。

【新規入会者】八尾和美様・古田晴彦様・藤田千賀子様

ご入会いただきありがとうございますございました。

また残念ながら当協会会員で昨年ラトビア訪問にもご一緒された大野良孝（元神戸市役所職員労働組合委員長）様がお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

なお本年の総会の開催はヴァイヴァルス大使の関西学院大学の講演会にあわせて10月20日（木）か21日（金）に開催の予定です。追ってご案内をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。（事務局金井）